

新しく発行された報告書

編集部

少し前の事になりますが、1988年に起こった2回の日食について、それぞれ報告書が発行されましたので、さっそく紹介しましょう。

(1) 高度3万フィートの黒い太陽 ～ 1988年3月18日、皆既日食機上体験記

3月18日のこの日食には、いまだかつてないような大勢の人々が大挙して出かけて行きました。その割に、報告書は出ていません。(情報センターでつかんでいるのは、これで2冊目です)

このグループのメンバーは、いずれも日食観測のベテランたちです。しかし、ベテランにも泣きどころがあり、それは「休暇」でした。休暇をひねり出すための窮余の策が、このユニークな観測隊を作り出したと言えます。

「日本で初めて、純粋にアマチュアだけで計画・実行した「機上観測」です。画期的ではありませんが、飛行機の窓を通してという条件の悪さと、1万mの高度も脅かすほどの天気の悪さから、地上で行うような「観測的」な事はできませんでした。そこでこの冊子も「観測報告書」ではなく「体験記」としたわけです。(編集後記より)」とありますが、短い各報告の中にも新しい観測に対する意気込みが感じられ、また、「アマチュアとして今回、世界で一番長く皆既を体験した」興奮が伝わって来るような、楽しいものになっています。

B5版、49ページ。黒い表紙が引き締まったイメージを与えています。

(2) 幻の日の出金環日食 ～ 未知の国ソマリア遠征記

こちらは1988年9月11日の、ソマリア金環日食の報告書です。日食情報誌上にもすでに報告記事が載せられていますが、この金環食は観測されませんでした。それにもかかわらず、なんと121ページもの冊子が出来上がってきたのです。

観測については、もちろん一通りのことが書かれています。残念ながら曇られていますから、日食の写真について寂しいものになっているのはしかたがありません。しかし、この報告書で面白いのは後半の旅行編でしょう。まさに「未知の国」を体当たりでわたって行く楽しさ、といったものが、全編にあふれています。添乗員の方がこんなに書いている報告書も珍しく、それだけにグループのアト・ホームな雰囲気も伝わってきます。

また、ソマリアという国についての文献としても、これだけ書かれたものは我が国唯一のものでしょう。なにしろ、首都での写真撮影が禁止されているというのに、この冊子には空撮をはじめ、ふんだんに写真が使われています。果して良いのでしょうか？

B5版、121ページ。表紙は幻想的(?)な金環食のイメージです。